

徳島グローバルキャンプ（オンライン） 成果報告書

1 事業概要

県内の施設を有効活用し、高校生が、英語を通して多様な価値観を持った国内外の同世代の若者と交流する機会を提供することで、グローバル人材として国際社会で活躍する際に必要とされる英語コミュニケーション能力、異文化理解、積極性、日本人としてのアイデンティティなどを育成した。

2 主催

徳島県教育委員会（担当：グローバル・文化教育課）

3 実施期間

12月26日（土）～12月28日（月）

4 実施場所

ホテル千秋閣

徳島市幸町3丁目55

5 参加者

高校生 39名

外国人留学生 26名

6 事業内容

（1）事前研修

- ・英語発信トレーニング講座

10月25日 英語通訳について（講演）

英語で徳島を紹介（実践）

11月15日 四国遍路の魅力について（講演）

県内外国人ゲストと歩き遍路体験（13番札所～16番札所）（実践）

- ・参加高校生へ教材・事前課題送付

ディスカッションのテーマや徳島県の魅力について事前に調べ学習を指示

(2) 事業実施期間中の中心となるプログラム内容

【オンラインを活用しての英語交流活動】

高校生参加者5～6名に対し、グループリーダーとして外国人留学生在が1名つき、50分×9コマの英語交流活動を実施した。カリキュラムは全て英語で行い、理想の世界を考え、それを表現した旗作りとプレゼンテーション、さらに私たちの理想の未来を描いてのプレゼンテーション等をとおして、現状をとらえ課題を解決していこうとする力など、将来、グローバル社会でリーダーシップを取り、異なる文化背景をもつ人々と協働するために必要な力を育成した。



生徒たちの感想

- Zoom を使ったので、聞き取りづらい時もあったが、自分にとってよい成長の機会になったと思う。
- グループリーダーが励ましてくれて、きれいな英語で話さなくてもよい反応が返ってきてとても話しやすかった。

※オンライン英語交流活動のアンケート結果は別紙“2020年徳島グローバルキャンプ振り返りシート集計結果”を参照

【異文化交流】

鳴門教育大学の留学生15人（出身国：マーシャル・ウガンダ・ジンバブエ・フィリピン・セネガル・マリ・中国・中国ウイグル・フィジー・インドネシア）を招いて参加高校生2～3人に対して留学生1人の小グループで、留学生の出身国についてのプレゼンテーションを聞いて質問をしたり、日本との違いについてやりとりをしたりして、交流を図った。今までよく知らなかった国について学ぶことで、グローバルな視野を広げた。



生徒たちの感想

- 異文化に触れる楽しさを改めて感じた。
- アフリカへ行ってみたいと思った。
- 今まであまり交流がなかった国の人々と話ができて、初めて学んだことがたくさんあった。
- 海外の異なる文化を持つ人々がどうして日本に来たのか、何を心に持って生活しているのかを知ることで、これからの自分の将来についてよく考えることができた。

【徳島の文化を紹介】

《会場：阿波踊り会館》

鳴門教育大学の留学生15人とともに、徳島の伝統文化である阿波踊りの歴史や踊りの種類を学び、高校生が留学生に英語で伝えながら交流を行った。最後には全員で阿波踊りをおどった。阿波踊りについて改めて学ぶことで、徳島県人としてのアイデンティティを深めた。



生徒たちの感想

- 阿波踊りについて改めて学び、徳島のことを知るよい機会であった。
- いろいろな国の人と一緒に踊った阿波踊りはとても楽しかった。

【座談会】

国際社会で活躍した経験のある社会人や、徳島で活躍する外国人を講師として招き、講演のあとは質疑応答で参加高校生が自由に発言する機会の提供をした。高校生のキャリア形成の支援とともに、チャレンジ精神や外向き志向の強化につなげた。

また、講師の1人であるマーティン ホルマン氏は徳島の伝統文化である阿波人形浄瑠璃の研究家であり徳米座の座長でもあり、実際に人形を使っての講演を英語でされ、アメリカ人から見た徳島の文化を学ぶという貴重な機会の提供となった。



社会人講師

- JICA 徳島デスク 国際推進員 長田有加里氏
- 人形浄瑠璃徳米座座長 マーティン ホルマン氏

生徒たちの感想

- 日本で活躍する外国人、外国で活躍する日本人という2つの観点で異なった楽しみややりがいを知ることができ、私の発展途上国に行きたいという意欲が高まった。
- 英語はただの道具であり、目的を明確に決めることが大切であるとわかり、自分の夢に向かってがんばろうと改めて思えた。
- 座談会で、何事も失敗を恐れずにチャレンジすること、一歩踏み出すことと、置かれた自分の立場をチャンスに変えて、自分を成長させることが大切であると学び、貴重な体験となった。

○期間中のスケジュール概要

1日目 12月26日(土)

(9:30~12:30)

- ・開会式
- ・オリエンテーション
- ・全体のファシリテーター(オフライン)及び各グループリーダー(オンライン)の自己紹介
- ・グループリーダーの出身国について生活習慣と文化を学ぶ
- ・グローバル社会について考える
グローバル社会とは何か、その魅力と自分の挑戦
- ・理想の世界について考え、その理念を表現した旗作り
- ・プレゼンテーション

(13:20~14:20)

- ・鳴門教育大学留学生15人との交流

①小人数グループによる異文化交流活動

(14:30~15:50)

バスにて阿波踊り会館へ移動

②阿波踊り体験

阿波踊りについて英語によるコミュニケーションをとりながら、踊り実践



2日目 12月27日(日)

(9:30~12:30)

- ・徳島の魅力をグループリーダーに紹介
- ・「日本で勉強している理由と将来の夢」についてグループリーダーによるプレゼンテーション
- ・「私たちの理想の未来を描こう」についてプレゼンテーション準備

(13:20~15:00)

- ・座談会

「外国で働く」ということを含め、自分の進路について考える

1グループ20人で講師を囲み、質疑応答など生徒1人1人が発言する

3日目 12月28日(月)

(9:30~12:30)

- ・「私たちの理想の未来を描こう」についてプレゼンテーション
- ・フィードバック
- ・表彰式

(13:20~15:00)

- ・アンケート記入
- ・閉会式



(3) 成果の普及

2月1日～28日 あわ(OUR)教育発表会にてグローバルキャンプを紹介
(Web配信)

7 事前・事後アンケートについて

(1) 実施について

同じ質問項目のアンケートを事前・事後に実施し、変化を見た。

(2) 結果について

①文部科学省の形式によるアンケート

(資料「令和2年度「徳島グローバルキャンプ」高校生参加者アンケート〈集計結果〉」参照)

次の4要素(12の質問項目)で顕著な(30%以上)変化

- ・要素Ⅰ－①語学力「英語で自己紹介ができる」

「外国の人に英語で話しかけることができる」

- ・要素Ⅱ－②チャレンジ精神「小さな失敗を恐れない」

「うまくいくようにいろいろな工夫をすることができる」

「新しいことに挑戦したい」

- ④責任感・使命感「自分がすべき役割をはっきりわかっている」

- ・要素Ⅲ－①異文化理解「交流国の文化(日常生活等)を理解している」

「初めての環境に自分からなじもうとする」

- ②日本人としてのアイデンティティ「日本の文化(日常生活等)を説明することができる」

- ・外向き志向「日本人として世界に貢献したい」

「外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたい」

「交流した外国の人と将来も繋がりをもちたい」

その他29項目中、20%以上変化は4項目、10%以上変化は8項目であった。

②徳島県の形式によるアンケート

(資料「徳島グローバルキャンアンケート結果(徳島県版)」参照)

- ・グローバルキャンプ全体を通しての満足度 満足－59%

まあ満足－38.5%

- ・キャンプで身についた力13項目中、次の4項目で70%を超えた。

英語のスピーキング力・全体的なコミュニケーション能力

チャレンジ精神・異文化に対する理解

8 成果及び課題と改善に向けた方策について

(1) 成果

- ・オンラインでの実施であったが、鳴門教育大学の留学生15名を招くなど、対面での活動を取り入れ、画面を介さずコミュニケーションできた経験が生徒の自信に繋がったと思われる。

- アンケート結果を事前事後で比較すると、29項目中12項目で30%以上の伸びを示し、予想以上の好結果となった。中でも特に伸び率が高かったのは、「外国の人に英語で話しかけることができる」（事前3%→事後51%）、「小さな失敗を恐れない」（事前10%→事後54%）、「初めての環境に自分からなじもうと努力する」（事前26%→事後67%）の3項目であり、40%以上の伸びを示した。

（2）課題と改善に向けた方策

- オンラインでの運営は、予定していたよりも時間がかかり、運営面でのスケジュール変更を余儀なくされた。また、オンラインでは生徒たちの場の状況が画面の向こうのグループリーダーに伝わりにくいため、会場のファシリテーターとの連携が不可欠であった。今後はオンラインのプラス面とマイナス面を考え、上手に活用する必要がある。
- アンケート結果から見ると、「将来外国の学校に行きたい」（事前15%→事後21%）や「将来外国の会社で働きたい」（事前13%→事後28%）、「日本の歴史を説明することができる」（事前0%→事後18%）などが伸びも少なく、「そう思う」と答えた生徒も少ない。コロナ禍で海外へ行けないという背景もあるかと思われるが、「語学力における外向き志向」と「日本人としてのアイデンティティ」の部分伸ばすことに課題が見られる。外国人と交流することは改めて日本文化の良さやすばらしさを認識する機会となるので、異文化交流の機会の提供を増やす必要がある。また、このキャンプ5日間だけでこのような資質を育成することは難しいので、今後も県教育委員会としてグローバル人材を育成するため、引き続き各学校と連携を取りながらさまざまな事業に取り組んでいきたい。

